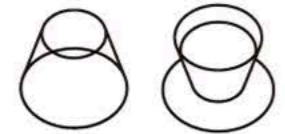


CAFE + MUSEUM SHOP

ミュージアムショップでは、展覧会図録や関連書籍、ポストカード、静岡市美術館のオリジナルグッズなどを販売しています。併設のカフェでは、香り高いコーヒーや静岡産の紅茶などもお楽しみいただけます。



オリジナルグッズ

- ・クリアファイル ・マグカップ ・色鉛筆
 - ・マスキングテープ ・缶バッジ ・茶アメ
- ※販売状況により在庫がない可能性があります

東海道五十三次ひとめ図

2012年1月、東海道を“ひとめ”で見渡せる漆工芸作品がエントランスホールに誕生しました。静岡の伝統工芸を今に伝える、蒔絵師、塗師、指物師の皆さんによる2×3mの大きな作品です。



美術館からのお願い



展示作品にはお手を触れないようお願いします



展示室内での撮影はご遠慮ください



作品保護のため、展示室内では鉛筆以外の筆記用具の使用はご遠慮ください



展示室内では携帯電話はマナーモードにし、使用はご遠慮ください



カフェ以外での飲食はご遠慮ください



ペットをお連れの方、植物をお持ちの方は入館できません

サービス



コインロッカー／傘立て
※ご利用の際、100円硬貨が必要です。使用後に返却されます。



車いす・ベビーカー貸出
※インフォメーションにて無料で貸し出しています。



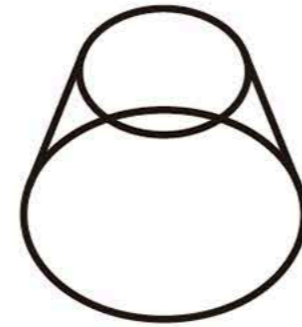
静岡・音楽館×科学館×美術館 共同事業
静岡駅前の静岡音楽館AOI、静岡科学館る・くる、静岡市美術館では、三館共同事業を開催しています。

- 《電車》 JR静岡駅北口より地下道を利用して徒歩3分
静岡鉄道新静岡駅より徒歩5分
- 《新幹線》 東京駅・名古屋駅から東海道新幹線ひかり号で約1時間
新大阪駅から東海道新幹線ひかり号で約2時間
- 《車》 東名静岡ICより約15分
※お車で越しの際は、近隣の駐車場をご利用ください。
- 《空路》 富士山静岡空港より静鉄バス（静岡エアポートライナー）で約1時間

開館時間 10:00-19:00 (展示室入場は閉館30分前まで)
休館日 月曜日(祝日の場合は開館、翌日休館)
年末年始
観覧料 展覧会により異なる。中学生以下無料。
交流ゾーン、ショップ利用は無料。
夜7時まで開館

〒420-0852 静岡市葵区紺屋町17-1 葵タワー3F
Aoi Tower 3F, 17-1, Koyamachi, Aoi-ku, Shizuoka, 420-0852 JAPAN
tel. 054-273-1515 (代表) fax. 054-273-1518 www.shizubi.jp

スケジュール 2024-2025



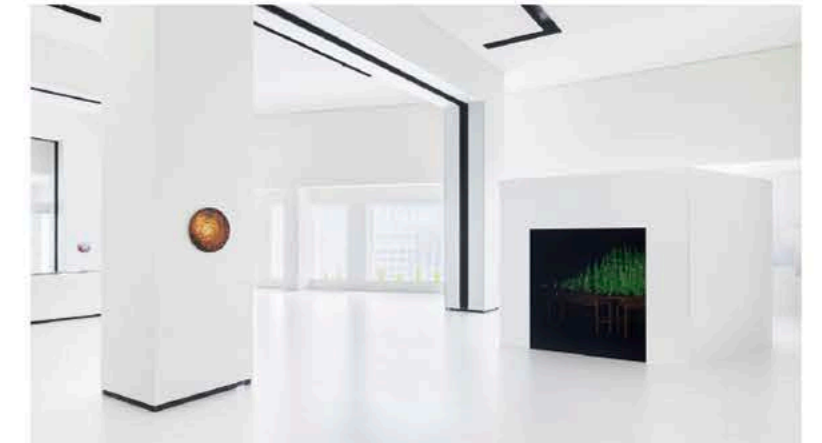
静岡市美術館 SHIZUOKA CITY MUSEUM of ART



静岡市美術館は、JR静岡駅北口の「葵タワー」3階に、2010年開館しました。「人・地域が躍動する芸術文化の創造・発信」を基本理念としています。展覧会事業と交流事業を柱に、“街の中の広場”のような美術館を目指しています。

交流事業

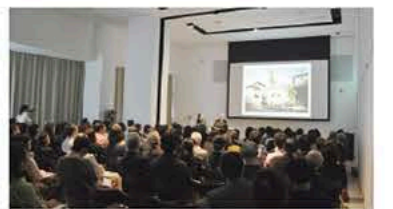
ミュージアムショップ&カフェのあるエントランスホールや、多目的室、ワークショップ室を「交流ゾーン」と呼んでいます。ここでは様々なアートシーンの紹介や講演会、シンポジウム、コンサート、映画上映やワークショップなどを実施しています。また、展覧会ごとに学校等の団体を対象にした鑑賞教室「ミュージアム教室」も実施しています。



「Shizubi Project 8 世界は生きている 松藤孝一」 photo/ 船口俊太



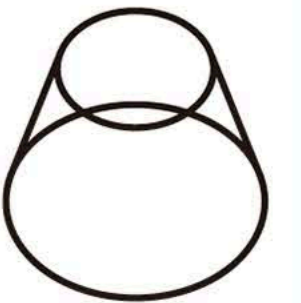
ワークショップ室「オープンアトリエ」の様子



多目的室 講演会の様子

美術館ロゴマーク

ロゴマークは、静岡、そして日本を象徴する富士山をモチーフにしています。重ねられた2つの円には、美術館を中心とした人の輪の広がり、地域と世界を結ぶイメージが表わされています。また、視点と奥行きの変化による“見ることの楽しさ”にも気付かせてくれます。



京都 細見美術館の名品 一琳派、若冲、ときめきの日本美術一

2024年4月13日(土)ー5月26日(日)

日本美術史を総覧する質の高いコレクションで知られる京都・細見美術館。本展では、同館の開館25周年を記念し、約1000点に及ぶコレクションから重要文化財8件を含む名品104件を厳選して紹介します。古墳時代の考古遺物や平安・鎌倉時代の仏教・神道美術、室町時代の水墨画、茶の湯釜、桃山時代の七宝装飾、茶陶、江戸時代の風俗画、肉筆浮世絵、そして現代でも高い人気を誇る琳派、伊藤若冲など、コレクターを魅了した美の世界を存分にお楽しみください。



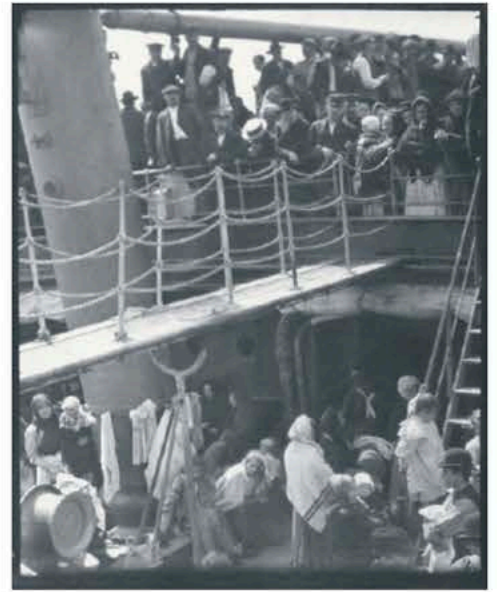
伊藤若冲《雪中雄鶏図》
江戸時代中期 細見美術館

令和6年度国立美術館巡回展

写真をめぐる100年のものがたり 京都国立近代美術館コレクションを中心に

2024年10月4日(金)ー11月17日(日)

近代写真の父アルフレッド・スティーグリッツが芸術としての写真の確立に努めてから100年以上が経ちますが、写真はどのように発展し、見られ、語られてきたのでしょうか。本展では、日本の美術館で先がけて大規模な写真コレクションを築いた京都国立近代美術館のコレクションを中心に、19世紀末から現在に至るまでの約180点で、多様に広がる写真表現の変遷をたどります。カルティエ＝ブレッソン、木村伊兵衛、ロバート・キャパ、ユージン・スミス、森村泰昌、トーマス・ルフなど、各時代を代表する写真家たちが登場します。



アルフレッド・スティーグリッツ
《三等船室》1907年
京都国立近代美術館

没後35周年記念

平野富山展 一平櫛田中と歩んだ彩色木彫、追求の軌跡

2024年6月6日(木)ー7月15日(月・祝)

静岡県清水市(現・静岡市清水区)出身の平野富山(1911-1989)は、日本近代彫刻史上、重要な彩色木彫家の一人です。人形師のもとで学んだ確かな彫技と彩色技術により、伝統的な主題から今日的な女性像まで、まさに超絶技巧とも言べき作品を生み出しました。また富山は西洋彫刻も習得し、日展を中心に活躍します。さらには木彫界の巨匠・平櫛田中(ひらくしでんちゅう)に信頼され、数多くの田中作品の彩色を手がけます。本展は日本近代における人形、彩色木彫、西洋彫刻の三つの領域を横断し、彩色の専門家としても作家を支えた平野富山の仕事の全容に迫る初の試みです。

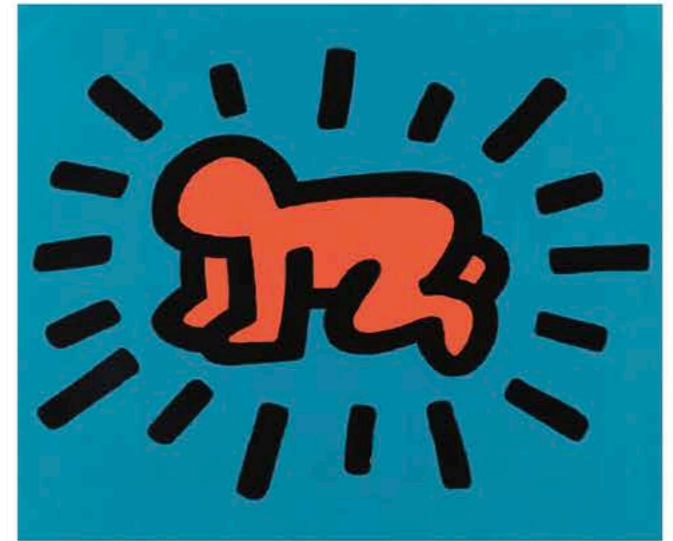


平野富山《羽衣舞》
昭和58(1983)年 静岡市

キース・ヘリング展 アートをストリートへ

2024年11月28日(木)ー2025年1月19日(日)

明るくポップなイメージで世界中に多くのファンを持つキース・ヘリング(1958-1990)。「アートはみんなのために」という信念のもと、1980年代のニューヨークを中心に地下鉄駅構内やストリートなど日常にアートを拡散させ、混沌とする社会への強いメッセージを発信し続けました。本展では中村キース・ヘリング美術館の所蔵品を中心に、絵画や版画、ドローイングなど約150点の作品を通して、31年という短い生涯を駆け抜けたヘリングの多彩な表現活動をご紹介します。



キース・ヘリング《アイコンズ》1990年 中村キース・ヘリング美術館
Keith Haring Artwork ©Keith Haring Foundation

珠玉の東京富士美術館コレクション

西洋絵画の400年

2024年7月26日(金)ー9月23日(月・祝)

東京富士美術館の約3万点に及ぶコレクションから選りすぐられた、80点余の西洋絵画を展覧します。西洋では伝統的に宗教画や神話画が高質な絵画ジャンルとして重視されましたが、近代になると斬新な絵画主題の開拓や、造形表現そのものの革新へと画家たちの関心が移っていきました。モネ、ルノワール、ゴッホ、シャガールといった人気画家のほか、ティントレット、ヴァン・ダイク、クロード・ロランなど日本では目にする事の少ない巨匠の名画を通して、17世紀から20世紀に至る西洋絵画400年の歴史をご覧ください。



ピエール＝オーギュスト・ルノワール
《赤い服の女》1892年頃
東京富士美術館
©東京富士美術館イメージ
アーカイブ/DNPartcom

北欧の神秘 ーノルウェー・スウェーデン・フィンランドの絵画

2025年2月1日(土)ー3月26日(水)

19世紀後半から20世紀前半にかけて、北欧の国々では豊かな自然風景や都市の景観、古くから伝わる神話、おとぎ話を題材として、数々の絵画作品が手がけられました。本展ではノルウェー国立美術館、スウェーデン国立美術館、フィンランド国立アテネウム美術館が所蔵する約70点の作品を通して、ノルウェー、スウェーデン、フィンランドの絵画史をひも解きます。日本でも有名なノルウェー出身のエドヴァルド・ムンクを筆頭に、北欧の画家たちが紡ぎ出す幻想的な絵画世界をご覧ください。



エドヴァルド・ムンク《フィヨルドの冬》1915年 ノルウェー国立美術館
Photo: Nasjonalmuseet/Børre Høstland